

(シラバス No.28) (教育実践研究科目)

科目名	教育実地演習	単位数	2単位	科目コード	E1
	Education Practice	担当教員	専任教員	形態	必修
【授業概要】					
<p>学校を始めとする現場において、4学期のうちのいずれか1学期を使って実施する。実習期間は3週間程度であり、プロジェクト研究Ⅱにおいて抽出した課題の解決を目指す。大学院側の担当教員（スーパーバイザー）は事前・事後指導ならびに実習中に訪問指導、助言を行う。また、実習後はプロジェクト研究Ⅱなどを通じて、解決した課題やその解決プロセスのまとめを行うとともに、現場で培った課題抽出・解決能力を生かすように努める。</p>					
【授業の到達目標】					
<p>①教育の専門職者として、職務について客観的・相対的な視点から分析を行い、職務を行う上での教育現場における自己の課題を抽出できる。</p> <p>②教育の専門職者として、①で挙げた課題について解決策の検討を行い、優先順位をつけながら、その実証を行うことができる。</p> <p>③教育の専門職者として、①・②で挙げた課題抽出・課題解決のプロセスを他の課題解決の生かすにはどうしたよいかについて考察ができる。</p>					
【授業計画】					
<p>第2年次の第3期を標準として、3週間程度のうちで総時間数60時間を満たすように実施する。実習は勤務校等にて行い、当該時間数を実習として事前に申請をしたうえで実施をする。プロジェクト研究Ⅱにおいて教育実地演習の成果も踏まえたレポートを作成することから、上記以外で実施する場合においても、2年次の第1期～第3期の間で実施することが望ましい。</p> <p>実習においてはプロジェクト研究Ⅱに含めた学修の中で、教育現場における課題を抽出する。実習ではその課題の解決を目指した実践を行う。実習の間、3回をめぐり大学指導担当教員が訪問して指導を行う。</p> <p>(1) 現職教員</p> <p>現職教員においては、大学院での学びを踏まえて教育現場における課題の抽出を行い、その解決を図る。大学指導担当教員の第1回訪問時（第1週前半を目安）には、学生の実践を観察し、課題の設定の妥当性や解決方向の妥当性についてアドバイスをを行う。第2回訪問時（第2週後半を目安）には、学生の実践を観察し、課題解決の方向性と進捗についてアドバイスをを行う。第3回訪問時（第3週後半を目安）には、学生の実践を観察し、課題解決の度合いと今後の実践への生かし方についてアドバイスをを行う。</p> <p>(2) 専門学校等での職業人養成を目指す学生</p> <p>これらの学生においては、大学院での学修を踏まえて事前の課題を抽出し、教育実践の中で、その解決を目指す。そのために、実習先での指導教員（メンター）のもと、専門科目・実習の指導、学生の指導の観察を行い、その後、授業の一部を受け持つ（ゲストスピーカーとしての参加を含む）。大学院指導担当教員の第1回訪問時には、学生が教育現場全体を眺めることができているかを踏まえてメンターとともに助言を行う。第2回訪問時には、学生が受けもつ授業についてメンターとともに助言を与える。第3回訪問時には、学生の実践を観察し、課題解決の度合いと今後の実践への生かし方についてアドバイスをを行う。</p> <p>実習終了後はプロジェクト研究Ⅱも活用して実習のまとめを行っていく。</p>					
【実習体制】					
<p>大学院生の役割：教育活動への従事、教育実践の経験、専門的な成長に関する内省と記録の継続</p> <p>大学指導担当教員の役割：実習校への訪問、実習授業・教育活動を省察する場の提供、実習生の成長に関する記録と評価、実習校へのフィードバック（または学生を通じての教育研究における協力）</p> <p>実習先の指導教員（2）の学生のみ：実習中の指導助言</p>					
【評価方法】					
<p>評価票、実習ノートを勘案し、かつレポートに基づき各学生の大学院の指導担当教員が評価を行う。</p>					
【教科書】					
<p>必要な場合には、当該学生の教育課題に即して、大学院の指導担当教員が指定する。</p>					
【参考図書】					
<p>必要な場合には、当該学生の教育課題に即して、大学院の指導担当教員が指定する。</p>					